

令和4年度 ESD2030学び合いプロジェクト（関東） ～気候変動による影響と対策に関する、学びと実践～

実施体制

ワーキンググループ（WG）

学び合いプロジェクトの内容を
検討するチーム

- ・プログラムの企画策定・評価
- ・講師

プログラム参加者
流山市東部中学校
生徒さん



ESDプログラム
実施



関係者限定公開

プロジェクトメンバー



年間を通じて、
イベントに参加するメンバー
（原則、オンライン参加）

希望者は誰でも全国から
参加可能。
一般、学校を想定

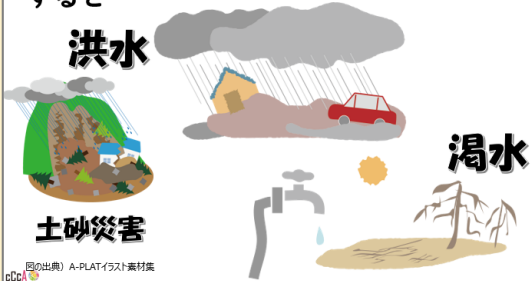
令和4年度 ESD2030学び合いプロジェクト（関東） ～気候変動による影響と対策に関する、学びと実践～

地球規模課題：気候変動



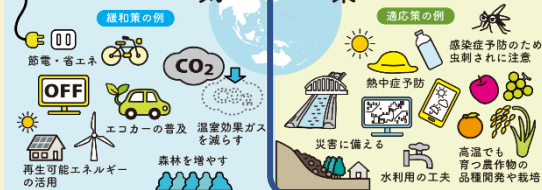
講師：
国立環境研究所
気候変動適応センター(CCCA)
吉川副センター長

地球温暖化の進行で雨の降り方が極端化すると…



↑ ↓ 吉川副センター長講演資料
出典) A-PLATイラスト素材集

緩和とは？ 2つの 適応とは？
原因を少なく 気候変動対策 影響に備える

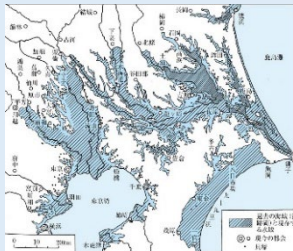


気候変動による、水害リスクの増大について理解する。

地域課題：防災

地域の地形の特徴と、具体的な防災上の危険箇所を理解する

地域の地形の成り立ちを知る
(講師：流山市立博物館)



約6,000年前は年平均で今より1～2℃気温が高く、海面が今より2～4m高かった

縄文の遺跡は、水没しない場所に分布している。



ハザードマップについて
(講師：流山市役所 防災危機管理課)
ハザードマップの解説をしていただき、市内で水害リスクが高い場所がどこか、災害時の対応について理解する。

身近な地域に潜む、水害リスクのある場所を理解し、防災リテラシーを高める。

外部講師による講座や、体験、探究を通じて、気候変動の影響、地域の地形と危険な場所、避難所の運営などについて理解し、自ら考え行動できる人材を育成したい。

夏季課題

探究：自分の興味のあるテーマで深掘りする

関心を持ったテーマについて探究することで、地域の防災リスクを「自分ごと化」する。



避難所開設訓練

流山の災害リスクを理解し、その上で、発災時にできることを、リアリティを持って体験する。
(別紙参照)



発表する

自分が一連の学習を通じて学んだことを発表することで、学習内容が腑に落ちる。

「避難所開設訓練」実施イメージ



地域にとって中学生とは？

- ・地元にいる可能性が高い
- ・地域の事を良く知っている
- ・知力・体力がある

高校生～会社員

- ・地元にはない可能性が高い



お年寄り

- ・地元にいる可能性が高い
- ・地域の事を良く知っている
- ・体力はない



11.5
2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。

SDGsの11.5を中心とした様々な項目の理解促進、課題解決の実践につながる

トレーニング次第で、地域防災の
有力な担い手となり得る

避難所開設 トレーニングの実施

- ・災害のメカニズムを知る
- ・避難所開設スキル
- ・サバイバルスキル（炊き出し、防寒等）
- ・弱者への対応スキル



地域にとってのメリット

- ・仕事や学校で地域外にいる事の多い大人に代わり、災害時の担い手の数を増やせる
- ・防災訓練を通じて、顔の見える関係を作ることで、地域のレジリエンスの向上

中学生の「生きる力」の向上（教育的効果）

- ・単なる「学習」ではなく、リアルな役割を与えることで、自分ゴト化
- ・様々な特性の子どもに、輝けるチャンスを与えることで、自己肯定感の向上につながる。
- ・自律的に災害リスクに関して考えるスキルを身に着ける
- ・将来域外に越しても、どこでも使える「一生モノ」のスキルが身につく。
- ・リアルな体験を通じて、学習意欲の向上につながる。

災害発生時に
中学校の避難所開設



指示を待つだけでなく、自律的に防災リスクを判断し、自律的に行動できる力をつける事が最終目標

令和4年度 ESD2030学び合いプロジェクト（関東） 全体イメージ

